

4N銀コイルやボロン製カンチレバーを採用 KUZMA製品の伝統を踏襲したMCカートリッジ

Text by 鈴木 裕
Yutaka Suzuki



KUZMA
CAR 40

MCカートリッジ
¥480,000(税別)
※組み合わせてお問い合わせください。

DETAILS



真鍮とアルミの複合体ボディが採用されている。質量は17g



本機の上位モデルとなる「CAR-50(¥1,100,000/税別)」
もラインアップされている

**ボロン製カンチレバーを採用
剛性感の高いMCカートリッジ**

スロヴェニアの高級アナログプレーヤーメーカー、クズマ。筆者もそのプレーヤー、スタビSコンプリートシステムⅡを使っている(現在はⅢ型に進化)。音もいいが、その前にまず造りがいい。基本的に無垢の真鍮やアルミ材から削り出したパーツがほとんどで、高剛性思想といったものが貫かれている。たとえばトーンアームのストラットの先端、カートリッジを取り付ける部分も削り出しだが、高い剛性がほしい、というのがよくわかる形状だ。黒く塗装してあるため削り出しとわかりにくいか、そういうことを證示しないメーカーなのだ。同価格帯の製品と比較した時にコンパクトでエラそうではないのが、精度にしても細部の仕上げにしても格が違つと感じることがある。

そんなクズマのMCカートリッジ、CAR-40を紹介したい。フランス・クズマ氏が設計し、50年以上の経験を持つ日本のメーカーとの協力を得て製造されると

いう。まず特徴的なのはそのボディで、アルミの削り出しの上部に真鍮のプレートがはまっている。見た感じでは鍛造しているかのようだ。重量は17gとやや重め。スタイルスはダイヤモンドのマイクロリッジ針で、カンチレバーはボロン。コイルは4Nの銀で巻き、インピーダンスは6Ω。ここから0.3mVの出力を発生する。

低音感が良好で安定感があり 倍音の伸び方もよく出ている

テストは拙宅で行なった。その音はひとことで言うと、ハイファイ性能と温かみのあるトーンが両立しているのだ。ミュージカリティがある、という言葉を使ってもいい。金属ボディのスクエアなデザインだが、聴きながら思い出していたのは、スポーツカーはシャーシの剛性が高いほどサスペンションが設計値通りに作動し、グリップも乗り心地も良くなるといふ話だ。CAR-40は音に安定感があり、低音感もけつこう高い。高域はこれみよがしに伸びている感じがないものの、ソロヴァイオリンの高域の倍音の伸び方はきちんと表現している。サウンドステレオは前後左右、天井方向にも広い、何か濃密な空気感を持っていて。リニアリティは高いが「特性がいいです」という主張をしてこないと言つたらいいだろうか。語弊を恐れず言えば、レコードの元のアナログのマスターapeを聴いているような感じがある。ハイファイ性能という言葉を使つたが、ハイファイ調の、オーディオ的な音とは違うのだ。そういう感じが、全帯域を通して徹底している。例えばミルシティンがソロを弾いている、ヨツフム／ワインファイルの『ブームス・ヴァイオリン協奏曲』。1972年の録音だがこの三者、それぞれに気魄がこもっていて、特に1楽章ではそれがぶつかり合う感じがある。それを表現しつつも、この曲本来の牧歌的なイメージや品のある音色が美しい。あるいは、ビル・エヴァンス・トリオの『ワルツ・フォード・デビイ』。ウッドベースの鳴りのいい、絶好調な感じ。しかし、エヴァンスのピアノも実は負けていない。そんなやりとりをヒューマンな感じで描き出してくる。

Profile

「CAR-40」は国内で取り扱われているラインアップの中では、上位モデルである「CAR-50」に継ぐ位置づけのモデル。全モデル共通の真鍮とアルミの複合ボディにボロン製カンチレバーと4N銀のコイルを採用している。

Specification

●タイプ:可動コイル ●コイル線:4N銀 ●カンチレバー材質:ボロン ●スタイル:マイクロリッジ針 ●周波数レスポンス:10Hz~40kHz ●出力電圧:0.3mV ●チャンネルバランス:(1dB ●チャンネル分離:)28dB ●針圧:2.0g ●コンプライアンス:10×10~6cm/dyne ●トックカーピリティ:70μm ●インピーダンス:6Ω ●負荷インピーダンス:100Ω ●質量:17g ●取り扱い:シーエスフィールド(株)

使用機材

- アナログプレーヤー/クズマ STABI S COMPLETE SYSTEM II
- プリアンプ/サンバレー SV-192A-D
- パワーアンプ/サンバレー SV-2PPM-6200
- スピーカーシステム/ソナスファベール ELECTA AMATOR III

試聴ソフト

- 「ワルツ・フォード・デビイ/ビル・エヴァンス・トリオ」
- 「アンブライド/エリック・クラプトン」
- 「ブームス・ヴァイオリン協奏曲/ナタン・ミルシティン、オングン・ヨップ、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団」

広いサウンドステージの中に濃密な空気感を持ち音質だけではない楽曲の背景にある音色感も表現